

全世代・全員活躍型「生涯活躍のまち」取組事例：奈良県 十津川村

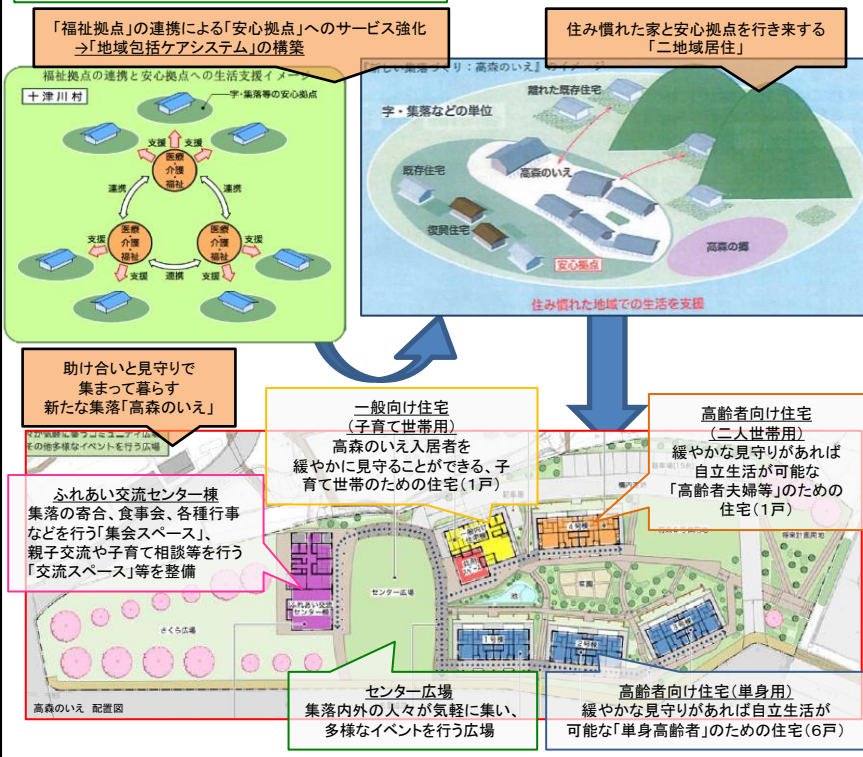
◆コンセプト：「誰もが最期まで村で暮らす」しくみづくり

平成23年の紀伊半島大水害時に建設された木造仮設住宅で暮らした村民の「みんなで一緒に楽しく暮らせた」という声をもとに、村民が「助け合い支えあいながら村で最期まで幸せに暮らすこと」を目標とした「安心拠点」を整備し、住まい・在宅医療・介護、生活支援サービスの強化・充実を目指す。

<特徴>

村の高齢者福祉のモデルプロジェクトとなることを目指し、関係各課と村づくりや福祉の専門家などで議論を重ねてきた。

新たな集落づくり(高森のいえ)



基礎データ

- 人口：2,804人（R6.4月時点）
- H26.4 高森のいえプロジェクト推進委員会設立
- H26.12～ 高森のいえ基本計画事業者選定・基本計画作成
- H27.4～H28.3 高森のいえ 基本設計・実施設計
- H28.7～H29.3 高森のいえ 建設工事
- H29.4～ 高森のいえ 入居開始

◆誰もが居場所と役割のあるコミュニティづくり

「交流・居場所」

【主な取組内容・進捗状況】

- 地域の音楽クラブや子ども向けのイベントなどにセンター棟を利用
- 高森のいえと既存の大字の集落との交流について、意見交換会等を開催

【今後の展開】

- 地域住民だけでなく、大学生の研修やフリーマーケットなど、地域外の人も呼び込むイベントの開催
- 共用スペースを活用したお茶会などを発展させたカフェ等の利用

「活躍・しごと」

【主な取組内容・進捗状況】

- 中庭に菜園を設け、自宅に居た頃と同じように農作業をすることで生きがいにつながる

【今後の展開】

- くくり柿などの軽作業による収入を得ることで、やりがいにつながる
- 平常時からお互いの生活に目を配り、声掛けをする、助け合うという役割を再認識し、やりがいとする

「健康」

【主な取組内容・進捗状況】

- 特別養護老人ホーム高森の郷と連携し、デイサービス等の支援
- 介護予防教室などの開催

【今後の展開】

- 通路スペース(屋根付き)を活用した散歩等によるリハビリ
- 介護予防教室をセンター棟で定期的開催
- 月1回の出張診療（センター棟和室を利用）

「住まい」

【主な取組内容・進捗状況】

- 村内に住所を持つ高齢者を優先入居
- 元の家について、処分を検討している場合は空き家・空き地バンク等を紹介

【今後の展開】

- 現在は高齢者の入居としているが、村の人口構成の変動によっては、子育て世帯や若者でも利用ができるような転用を考えている（屋根裏収納を設けるなど、将来性を見据えた設計としている）

コミュニティへの人の流れ

- 公園や遊び場が少ない村内において、地域の子どもの遊び場になることで、高森のいえ入居者との交流が生まれる
- 医療・福祉のサポートがあるため、安心して村内に住み続けることができ、人口と介護保険費用の村外への流出を食い止めることができる
→村外に住む家族の安心にも繋がる

その他特徴的な取組

- 介護保険費用を活用した施設ではなく、村営の住宅とすることで、介護保険だけに頼らない住民同士の助け合いで暮らしを維持するシステム
- 自宅と高森のいえを行ったり来たりできる、二地域居住を推進